

令和 8 年度 第 4 回 教育委員会

日時 令和 8 年 7 月 1 0 日（金） 15:30～16:30

場所 町公民館（大会議室）

出席者	教育委員	柿田 美香	教育長	高松 公俊
	教育委員	横山 慎子	教育総務課長	佐藤 光久
	教育委員	中神 克寿	社会教育課長	麻生 昌秀
	教育委員	山口 昇（欠）	教育総務課主幹	馬場 勇次
			教育総務課係長	森本 亜紀
			社会教育課係長	井上 隆広
			SSW	谷口 修二
			議事録	古高 望

○開会の挨拶

○教育長挨拶

スーパーエルニーニョの影響により多くの台風が発生することが予測されること、先日行われた架け橋プログラム研修や交通事故及び水難事故防止について触れ挨拶を行った。

○教育長事務報告

（教育総務課 係長）

行事経過報告並びに行事計画について、資料に沿って説明を行った。

（社会教育課 係長）

教育総務課と同様、行事経過報告並びに行事計画について、資料に沿って説明を行った。

（教育総務課 課長）

6 月議会の報告を行った。先生方の公務用パソコン 52 台（小学校 29 台、中学校 23 台）の取得について無事承認が得られ、パソコンについては今月中に学校の方にそれぞれ配置ができるような予定としている。もう一点、公の施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正した。内容としては、こども誰でも通園制度の項目で施設を利用したときの料金を明記する必要性についてで、それに伴う改正を行い承認を得た。また一般会計の補正予算として、児童館に保育士を配置するなどの人事異動に伴う費用や部活動指導員への報償費、AI 学習のクラウド教材のライセンスに係る費用を上程し、承認を得た。

（社会教育課 課長）

教育総務課と同様、6 月議会の報告として、人事異動に伴う一般会計の補正予算を一件上程し、承認を得た。

(教育委員)

保育園の正職員の方が児童館に行かれたとのことだが、園児数が減り人的余裕が出たからなのか。

(教育総務課 課長)

公立保育所が南俣保育所のみになり、人的余裕もあるというのも理由としてはあるかもしれないが、児童館も強化していく必要があると考えており、配置された職員が携わった子たちが1、2、3年生になりどのように成長しているかを見られたりと、そういったところではプラスになる部分も非常にあるのではないかと感じている。また実際そのような感想も頂いている。統合をして園児数が減ったということはない。

(教育委員)

共働きが増えた社会になってきているため、子供たちを見守る受け皿をしっかりと整えていかなければならないと思う。

(教育委員)

これからも保育士の先生方が児童館や保育所を異動するとの認識で良いか。

(教育総務課 課長)

今後子供が減り、先生方が「保育士」の役割だけではいけなくなる時代が来るようなときに、例えば健康センターに配置をしたりなどの可能性は出てくるのではと考えている。

(教育委員)

児童館や他施設を経験した先生が保育園に戻るなどが行われるようになれば、そのような動きが架け橋教育につながりお互いに勉強になると感じる。

(教育長)

今の人員配置を固定するということではなく、様々な経験をしてそれを保育に活かすという形で有効な人事異動ができればと考える。

(教育総務課 主幹)

幼保小中教育研修会（8月20日開催）の研修内容について説明を行った。研修は午前の部、午後の部の2つに分かれて実施し、①授業改善、②ゲートキーパー養成講座（命を守る教育について）、③特別支援教育、④業務効率化（生成AI活用）の4つの項目を組んでいる。どれも先生方の「課題」に沿った内容となる。

(教育総務課 主幹)

上記に引き続き、熊本県益城町視察研修について説明を行った。

内陸部の綾町は、沿岸部に比べて危機感が薄れがちだという校長先生の意見もあり、地震被災地の益城町を選んだ。役場の総務課長も同行し、綾町として想定外の事態が起こった際どのような対応をとるべきか等学ぶ予定である。

(教育委員)

益城町視察研修の資料の中に、「マンホールトイレ」について記載があるが、普通の簡易トイレとはどのような違いがあるのか。

(教育総務課 課長)

上下水道に直接流れるものになる。綾町でも建設課の上下水道施設を使用し、このようなトイレの整備をしていかなければならないなどの話はでている。

(教育委員)

簡易トイレにも様々な種類があるが、以前幼稚園で実施した際、心理的なハードルがあるようで「座っても（排泄が）出ない」という問題があった。特に今の子供たちは和式トイレが使えない子が多いため、大人も子供も実際に座ってみる訓練が必要になると考える。

(教育委員)

綾小中学校に防災用品は揃っているのか。また、各公民館の倉庫の中には何が備えられているのか。

(教育長)

学校にはテントやベッドなどの備品はあるが、食料備蓄は学校には置いていない。災害時に本当に必要となるものを、益城町での研修を通し整備していきたい。

(社会教育課 課長)

公民館の倉庫には、投光器や発電機、コードリール、ガソリンが基本的に整備されている。

(教育総務課 主幹)

小・中学校の児童生徒等の状況について説明を行った。生徒指導では、スクールソーシャルワーカーが夜の8時に家庭訪問を行うなど、福祉と連携した安否確認を強化している。嬉しい報告として、不登校気味だった子が、校内教育支援センターでの対応を経て、野菜販売イベントで元気に活動していたという事例もあった。

(教育総務課 主事)

準要保護者の認定について6月時点での追加報告を行った。

小学校：3名 中学校：2名 の追加認定となった。

(教育長)

中学校の支援校訪問に参加して下さった教育委員より何か感想、意見等あればお願いしたい。

(教育委員)

生徒がグループごとに主体的に意見を出し合っていたスタイルはとても良いと思った。だが、グループ学習において「3分で話し合い」「5分で考えなさい」といった短い時間設定がなされている中で、自分の思いを全て友達に伝えるのは難しいのではないかという懸念もあった。子供たちが受け身ではなく主体的に動く姿は多く見ることができ、全体的に学ぶ意欲が感じられた。

(教育長)

最後に架け橋プログラム（幼保小連携）について先程と同様、感想等あればお願いしたい。

(教育委員)

架け橋プログラムでは小学校一年生の「朝顔の色水遊び」の授業を拝見した。実は全く同じ活動を前日に幼稚園でも行っており、園児は「水の量が少ないと色が濃くなる」「多いと薄くなる」などの気づきがあった。このような幼稚園での「気づき」を、今度は小学校の授業の中で「言語化」して友達と共有する。それが小学校での目標になると感じた。

(教育委員)

園によってハサミや棒などの道具を使わせる基準が違い、入学時に経験の差が出ているというようなこともあり、学びの系統性を合わせていく必要もあると感じた。

(教育委員)

ただ、この内容を共有し合う話し合いの場の時間が30分しかなく、先生方も色々と気づかれていたのに、感想の共有で終わり深める時間がなかった。次回は感想の次の段階の話までできると良いと思う。

(教育長)

次回の定例教育委員会は8月10日ですが、その期間で国スポ【ハンドボール】のリハーサル大会が開催されているため、てるはドームの空調効果も含め現場視察を考えている。

○閉会